

平成24年度

# 橋梁技術発表会及び講演会

— 快適環境をつなぐ鋼橋 —

参加費無料  
定員250名  
申込先着順

平成24年

日時 **11** / **22** (木) **13:00~17:05**

会場 **レソラNTT夢天神ホール5F**  
〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神2-5-55  
Tel.092-781-8888

13:00~13:10

## 開会の辞

一般社団法人 日本橋梁建設協会  
副会長・専務理事 中島 威夫

13:10~13:40

## 橋建協報告

次世代に贈る100年橋梁  
— 鋼橋の長寿命化に向けて —

企画委員会 広報小委員会

## 申込方法

- ① Fax. 092-475-6255 (裏面の用紙に記載)
- ② ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>  
の「技術発表会申し込み受け」まで(受付は9月下旬から)

## 申込期限

平成24年11月9日(金)

## 連絡先

一般社団法人 日本橋梁建設協会 九州事務所  
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-5-19  
(サンライフ第3ビル)川田工業内 Tel. 092-475-6255

## 継続教育

CPDS認定予定

- ※東京地区は 10月12日(金) 銀座プロッサムホール  
大阪地区は 10月26日(金) ドーンセンター  
東北地区は 11月 7日(水) 仙台国際センター  
中部地区は 11月16日(金) 東建ホール・丸の内 開催です。  
申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

## 第1部:技術発表会

13:40~14:20

## 1.徳島東環状線

## 阿波しらさぎ大橋の工事報告

— ケーブルイグレット形式橋梁の設計と架設 —

技術委員会 設計小委員会 架設小委員会 松原 薫

14:20~14:30

## 休憩

14:30~15:10

## 2.鋼橋の耐久性向上に関する取組み

— 溶接部の止端仕上げと耐候性鋼材の腐食減耗量の予測 —

技術委員会 製作小委員会 鈴木 俊光  
石原 一伸

15:10~15:50

## 3.保全工事における基本工種と留意点の紹介

— これから保全技術者を目指す方々のために —

保全委員会 保全小委員会 田崎 利広

15:50~16:00

## 休憩

## 第2部:特別講演会

16:00~17:00

## 1.競争力の強い超耐久性・極低LCC鋼橋の開発と沖縄での取組み



琉球大学 工学部 環境建設工学科  
准教授 下里 哲弘

17:00~17:05

## 閉会の辞

橋梁技術発表会実行委員会

発表原稿のPPTはホームページに掲載しますので、ご希望のかたはダウンロードするようお願いいたします。

## アクセス



- 西鉄福岡(天神)駅から徒歩2分
- 地下鉄空港線天神駅から徒歩5分
- 地下鉄七隈線天神南駅から徒歩5分
- JR博多駅から天神まで地下鉄で5分
- 福岡空港から天神まで地下鉄で11分
- 天神バスセンターから徒歩3分

## 1 徳島東環状線 阿波しらさぎ大橋の工事報告

—ケーブルグレット形式橋梁の設計と架設—

阿波しらさぎ大橋は、徳島市の吉野川河口から約2kmを横断する橋梁で、架橋地点にある干潟の区間は希少生物保護のため橋脚を設置せず長大支間とし、干潟に飛来する鳥類への配慮から主塔が低くケーブル段数の少ない世界で類のない構造の4径間連続ケーブルグレット形式とした。架設は側径間を台船一括と張出し工法とし、中央径間は架設ケーブルによる斜吊り併用のトラベラクレーンで張出し架設し、閉合後に本ケーブルを設置した。

## 2 鋼橋の耐久性向上に関する取組み

—溶接部の止端仕上げと耐候性鋼材の腐食減耗量の予測—

溶接部の止端仕上げに関する研究成果と耐候性鋼橋梁のワッペン式暴露試験について報告する。はじめに「道路橋示方書」における止端仕上げについて、止端半径3mm以上に仕上げることによって規定の強度等級を満足するとの研究成果と実務上の施工管理方法を示した「溶接止端仕上げの手引き」について報告する。次に、耐候性鋼橋梁の耐久性に大きく影響する腐食減耗量を、簡易かつ短期間で精度良く予測可能な「ワッペン式暴露試験」が近年試験的に適用され始めているが、この具体的な試験方法や評価手法を紹介する。

## 3 保全工事における基本工種と留意点の紹介

—これから保全技術者を目指す方々のために—

近年、鋼橋の保全工事の需要は高まってきており、保全技術者を目指そうという方々が増えてきている。橋建協としては、そのような方々の技術力向上をバックアップしたいと考えている。

本発表では、「保全工事を基本に立ち戻って学んでみよう」という観点で、保全工事における基本的な工種(ケレン、野書き、現場孔明、ボルト締め、ジャッキアップなど)について、一般的な要領とともに施工時の留意点および実際の現場で工夫しているポイントなどを紹介する。

### 特別講演会

#### 1 競争力の強い超耐久性・極低LCC鋼橋の開発と沖縄での取組み

下里 哲弘

琉球大学  
工学部環境建設工学科  
准教授

—略歴—

平成5年 琉球大学大学院修了  
平成5年 首都高速道路公団入社  
神奈川建設局特殊設計課  
鋼構造物疲労対策Gなどに在籍。  
平成19年 琉球大学工学部助教  
(環境建設工学科土木コース)  
平成22年 琉球大学工学部准教授  
現在に至る

—専門分野—

鋼構造工学  
橋梁工学  
維持管理工学  
博士(工学)  
土木鋼構造診断士

講演概要

鋼橋において、長期耐久性・低LCCを目的に重防食塗装・金属溶射などが開発され、また、鋼橋の補修性・回復効果は他材料構造物より圧倒的に優れている。しかし、いまだ維持管理費用がネックとなり鋼橋採用増とならない主要理由となっている。よって、鋼橋の特徴を活かした更なる技術開発と技術発信を行い、超耐久性・極低LCCといった進化する現代ニーズを満足する競争力の強い鋼橋の開発が求められている。

本講演では、過酷な腐食促進環境下の沖縄で取り組んでいる鋼橋の防錆防食対策および海洋架橋で適用した新たな防錆技術について紹介するとともに、腐食劣化した鋼桁・高力ボルトの診断に関する研究を概説する。

FAX番号:092-475-6255

平成24年度

11月22日(木)

橋梁技術発表会

[九州地区]

参加申込書

所属

団体名

所属

氏名

役職

氏名

住所

〒

電話番号

FAX番号

E-mail

前回参加の有無 有 ・ 無